

ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 26-2

平成26年 7月28日

農業総合センター有機農業推進室
http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4
/nougyou-centre/index.htm
TEL(024)958-1711 FAX 958-1730
Facebook「オーガニックランドふくしま」



『有機栽培現地研修会』が開催される！

農業総合センター有機農業推進室

6月27日（金）に、約60名の有機栽培農家等の参加のもと、『有機栽培現地研修会』を開催しました。

はじめに、天栄米栽培研究会の「水稻の有機栽培と米のブランド化の取組み」について、天栄村役場産業振興課の大木係長と研究会の岡部政行会長に説明していただき、その後、有機栽培米のほ場視察を行いました。

『天栄米』は、米食味分析鑑定コンクールで6年連続金賞を受賞されていますが、



天栄村役場で大木係長から話を聞く



有機栽培米ほ場を大勢の参加者と視察した

ブランド化に向けて役場と農家が徹底して話し合い、その方策を決め、一つ一つ実行されてきたことが、結果に結びついていると感じられました。

次に、「野菜の大規模有機栽培と人材育成の取組み」について、白河市大信の(有)旬彩ファームの寺島専務より説明をしていただきました。

旬彩ファームでは、地域の遊休農地を借用して解消を進めるとともに、契約栽培によるタマネギ、白菜などの大規模な有機栽培に取り組まれておられ、視察した約60aのほ場ではタマネギの収穫作業を行っていました。

時折雨が強く降る空模様でしたが、水稻の除草方法や、タマネギの定植方法や出荷等についての質問が多くあり、参加者の関心は高かったようです。



質問に答えている岡部会長



寺島専務による説明



タマネギ畑にも大勢の参加者

本年度の現地実証ほの紹介

本年度の現地実証ほは、下表のとおり8箇所を実施しています。

平成26年度有機栽培実証ほ設置計画

No	住 所	対象作物	試験内容
1	白河市東上野出島	水稻	有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認
2	二本松市太田	イチゴ	新規導入作物 苗取りと天敵資材を用いたアブラムシ防除
3	二本松市上長折	ビーツ	新規導入作物 秋播栽培の播種時期と体系的病害虫防除
4	大玉村玉井	ミニトマト	有機による体系的防除 天敵資材を用いたアブラムシ防除
5	広野町折木	水稻	有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認
6	湯川村大湊	大玉トマト	有機による体系的防除 有機で使用可能な資材の効果確認
7	会津若松市石堂町	トレビス ロメインレタス	新規導入作物 有機肥料、防虫ネット栽培
8	檜枝岐村下ノ原	ソバ	大規模有機栽培

水稻の課題は、県南・双葉の2箇所で「有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認」という課題で、バチルス菌という自然界に存在する微生物が有効成分である資材を使った試験を行います。この剤を予め散布しておくことで、バチルス菌が植物体上で定着・増殖し、病原菌の侵入を許さない仕組みになっています。

野菜類は、新たな品目の導入や生物農薬も考慮した防除体系の実証がねらいになります。イチゴやビーツ、トレビス・ロメインレタスについては、県内では有機栽培の事例が少なく、防虫ネットや生物農薬を用いた防除体系を確認します。

ミニトマトや大玉トマトも、天敵資材や微生物資材を用いた防除体系の確認を行います。南会津の檜枝岐村では、有機栽培の推進を図るため、比較的導入しやすいソバを用いて、大規模有機栽培を目指しています。

《中通り》

農業総合センター有機農業推進室

＜大玉村 渡邊 正雄さん＞

大玉村の渡邊 正雄さんは、ビニルハウス内で有機栽培ミニトマトを生産しています。以前、タバコガなどの鱗翅目による被害軽減のために、防虫ネットの導入試験を行い、防除効果が確認されましたが、現在はアブラムシ類の発生が多くなっています。そこで、今回は効果的な防除を目指して、天敵を利用した防除体系の実証を行っています。

本年は、天敵（コレマンアブラバチ）の放飼を、6月12日と7月18日の2回に行いました。この寄生蜂は、発生極初期のアブラムシを探索して寄生し、アブラムシを長期間にわたって低密度に抑え続ける効果が期待できます。今後は、対象害虫の発生度合いや、放飼した天敵の定着を確認しながら試験経過を観察していきます。

また、天敵資材の効果が不足する場合には、有機栽培で使える植物油脂が主成分の殺虫剤や昆虫に寄生する糸状菌（カビ）が主成分の微生物殺虫剤を散布する予定です。



天敵昆虫コレマンアブラバチの資材



ハウス内のミニトマト



マミー（寄生を受けたアブラムシの幼虫）

《会 津》

会津農林事務所農業振興普及部

<会津若松市 玉樹 奨平さん>

秋冬期の新たな品目の開発に向け、西洋野菜（トレビス）の栽培を開始しました。

トレビスは、赤紫と白のコントラストが特徴的なレタスに似た結球野菜で、独特の苦みがあり、主にサラダの彩りに使用されています。

日本ではまだなじみが薄く、栽培も難しいことから、生産者は少なく、今後が期待される品目となっています。

作業は、6月16日に播種作業を行い、7月10日に定植、9月下旬に収穫を予定しています。

また、9月にはロメインレタスの播種を予定しています。



播種作業中の玉樹さん



定植したトレビスの様子

<湯川村 大久保 朋洋さん>

湯川村の大久保 朋洋さんは、花き（アルストロメリア）栽培ハウスの一部を利用して有機栽培トマトを生産しています。近年アザミウマ類や病害の発生が顕著になり、効果的な防除を目指して、天敵（昆虫、微生物）を利用した防除体系の実証を行っています。

本年は、6月30日に天敵（ククメリスカブリダニ）の放飼を行いました。

トマトでは天敵の定着が難しいといわれていることから、対象害虫の発生度合いや、放飼した天敵の定着を確認しながら試験を行う予定です。



定植直後のハウス



天敵昆虫ククメリスカブリダニの資材

各地域からの話題

《浜通り》

相双農林事務所双葉農業普及所

○ 広野町の有機水田で『親子田植え体験会』が開催される！

6月1日(日)に、双葉郡広野町で有機認証を目指している新妻良平氏の水田(有機実証ほ)において、町内の有志でつくる「広野町がんばっ会」主催による、親子田植え体験会が行われました。田植え体験会は、昨年につづいて2度目で、新妻氏が植え方やアヒルの働きを説明した後に、参加した親子30名が一生懸命に手植えで行いました。子供達の中には、泥に足をとられて泥んこになりながら田植えをする姿も見られ、終始和やかな雰囲気の中で、自然との触れあいや農業のすばらしさを子供たちに伝えるものとなりました。

「広野町がんばっ会」は、広野町内で暮らす子供達に楽しく過ごしてもらおう活動を行っており、夏には流しそうめん、冬には餅つきなどのイベントを開催する計画で、新妻氏と農業の仲間も積極的に参加し、農業をPRすることとしています。

また、この水田では、有機JAS適合微生物資材(商品名:ボトキラー水和剤)の実証ほとして、水稻いもち病防除効果について検討する予定となっています。今後、散布の有無及び散布回数ごとの防除効果等について調査を行う計画であり、有機農業の技術向上にも一翼を担っていただきます。



親子の田植え体験



アヒルのヒナの観察



どろんこになって田植えする女の子

○ 有機栽培米、アイガモ放鳥始まる！

会津若松市の(有)すとう農産の有機栽培ほ場で6月10日、アイガモの放鳥が行われました。当日は地元荒館幼稚園の園児25人がアイガモの雛1羽1羽水田に放しました。

放鳥後も園児たちは、「アイガモさんこっちこっち」と呼びながらアイガモを追いかけて畦畔上を走り回っていました。

園児達によるアイガモ放鳥は、今年で5年目。(有)すとう農産のアイガモ利用は15年目を迎えました。当日は、報道各社による取材も行われ、担当した(有)すとう農産の須藤 健さんが各社の取材に答えていました。

すとう農産のアイガモ放鳥は7月中旬の「海の日」頃まで行われ、一旦専用飼育場にて飼養した後、11月頃には食肉処理される予定です。



元気に泳ぐアイガモ達



取材を受ける須藤 健さん

○ 『五百万石有機栽培現地研修会』が実施される！

7月7日、AizuSoraの会を中心に、有機栽培五百万石の現地研修会が行われました。

当日は、農業総合センター有機農業推進室手代木室長を講師に、小雨の中会津美里町を始めに喜多方市熱塩加納までの現地圃場5か所を巡回し、各ほ場にて肥培管理や除草方法、生育状況等について活発に意見交換を行いました。

巡回時の生育は、草丈が50cm前後まで伸張し、茎数も目標の20本が確保されており、生育は良好でした。今後は9月に酒造メーカーを加えた現地検討会を開催する予定です。



順調に生育する五百万石のほ場



ほ場で意見交換する生産者

○ 有機農産物直売所を訪ねて

会津若松市内城東町旧会津総合病院西向かいに、農産物直売所『有機100%』があります。

お店は、自ら有機農産物生産者でもある高階 博利さんが、昨年7月に開店したもので、間口3間、奥行き1間と小規模ですが、直販スペースの他、ちょっとした休憩のためのベンチや井戸（手押しポンプ式）などが設置されています。

井戸は、「震災の経験から防災用として利用することも念頭に設置した」とのことで、通常は夏場の打ち水や、ジュース類（ラムネ）等を冷やすことに利用しています。お伺いした際も、修学旅行の生徒さん方が立ち寄る姿も拝見しました。

現在1周年を迎えた直売所には、周辺の住民の他、地元のレストランや有機の産物を求める方々等の固定した利用者が増えているようです。

販売している有機農産物は、高階さんが所属している『あいづ有機農法生産組合』の生産者の農産物を主に扱っていますが、会員以外の方の有機農産物も取り扱っています。

直売所について高階さんからは、「直売所は1年通して開けています。夏場は品揃えが豊富ですが、冬場は品数が減ってしまい、黒米等も販売しています。今後は、有機の加工品なども扱って、品揃えを増やして行ければと考えています。」との抱負を語っていただきました。



高階 博利さん



有機農産物直売所『有機100%』
会津若松市城東町3-10

《お知らせ》

○ 第9回農業総合センターまつりの開催

今年の日程は、9月12日(金) 9:30~16:00、13日(土) 9:30~15:00 です。

今年は『いいね！がいっぱい ふくしまの食と農』をテーマに、試験研究の成果展示や農業技術相談に加えて、講演会やセミナーも実施いたします。

また、新たに「ほ場案内バスツアー」が実施されます。

例年どおり、センター内生産物の直売や体験コーナーも実施いたします。

協賛イベントとして、地産地消直売展や農機具展示も行います。

詳しくは、農業総合センターのホームページをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/nougyou-centre/index.htm>

今年も新規就農研修（有機農業）が始まる！

農業総合センター有機農業推進室

今年度も、農業短期大学校研修部による新規就農者を対象とした専門研修（有機農業）が、6月2日から8月29日に掛けて、計4回実施されます。

6月2日の第1回目は、7名の受講者が参加しました。午前中は手代木室長による講義で、「有機農業」全般についてのお話でした。午後は「ボカシ肥料の作り方」の実習を行いました。説明の後、米糠・菜種油粕・魚粕に水を加えてよく混ぜ、小山状にし、麻袋で覆いました。この後は、温度が50℃程度になったら切り返すことを3～4回行って、ぼかし肥料を完成させます。受講者は、この後に場内の有機野菜試験ほ場を見学して1日目は終わりました。



ボカシ肥料作り

7月1日の2回目も7名の参加でした。午前中は「水稻の有機栽培」の講義と場内にある有機栽培試験水田を見学しました。また、前回作成した「ボカシ肥料」のできも確認しました。午後は、郡山市内の有機水稻栽培水田を視察しました。



場内有機水田で説明する手代木室長

今後は、8月7日には「野菜の有機栽培」の講義と現地視察、8月29日には県内の有機栽培先進地へ行き、視察先の農業者のほ場を見学し、話を伺う予定です。

また、その後の農業短期大学校で実施される有機農業関係の研修は、就農予定（希望）者を対象に、実際に短大内の有機ほ場で農作業を行う「就農準備研修 秋コース」が9月～11月に隔週で7日間実施される予定です。

《お知らせ》

○ ふくしまオーガニックフェスタが開催！

9月14日(日)10時より「郡山総合地方卸売市場 水産棟」において、『**ふくしまオーガニックフェスタ2014**』が開催されます。

内容は、有機農産物・加工品等を販売する**オーガニックマーケット**、有機野菜を使った料理が楽しめる**コミュニティカフェ**やパネル展示が行われます。

また、子供も参加できる**ワークショップ**などのイベントも行われます。

お問い合わせは、**フェスタ実行委員会**へお願いいたします。

TEL:0243(24)1795 E-mail:fes@fushima-yuuki.net